



平成 26 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社小田原エンジニアリング  
代表者名 代表取締役社長 宮 脇 伸 郎  
(JASDAQ・コード 6149)

問合せ先

役職・氏名 執行役員管理部長 石 塚 立 身  
電話 0465-83-1122

子会社の営業外収益の発生並びに特別損失の発生及び平成25年12月期業績予想値と  
実績値との差異に関するお知らせ

本日、当社連結子会社であるローヤル電機株式会社が、別添のとおり営業外収益の発生並びに特別損失の発生及び平成25年12月期業績予想値と実績値との差異が生じた旨を公表しましたので、お知らせいたします。

なお、これによる当社の連結業績予想への影響は、現在精査中であり、業績予想の修正が必要となる場合は速やかに開示いたします。

以 上

(添付資料)

・ローヤル電機株式会社開示資料

「営業外収益の発生並びに特別損失の発生及び平成25年12月期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ」

平成 26 年 2 月 12 日

各 位

会社名 ローヤル電機株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 佐藤 和義  
 (JASDAQ・コード6593)  
 問合せ先  
 役職・氏名 執行役員管理本部長 鮫島 弘一  
 電話 03-5424-1860

## 営業外収益の発生並びに特別損失の発生及び平成 25 年 12 月期業績予想値と 実績値との差異に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向や営業外収益並びに特別損失の発生により、平成25年11月7日に公表しました平成25年12月期の業績予想値と本日公表の実績値との差異に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 営業外収益の発生及びその内容

前連結累計期間において計上しました更生会社ワシ興産株式会社の貸付に対する貸倒引当金の残高60百万円（平成25年11月7日公表の貸倒引当金戻入額計上後）に関し、同更生会社から平成25年11月20日に更生会社ワシ興産株式会社の分割新会社であるWK非事業用資産管理株式会社の種類株式を同金額分の株式で弁済を受けました。平成26年1月に同株式の資産価値を客観的に確認出来たため、貸倒引当金戻入額として営業外収益に計上することと致しました。

#### 2. 特別損失の発生及びその内容

##### (1) のれんの減損損失（連結）

当社連結子会社の現在の不透明な事業環境及び業績等を勘案し、回収可能額を保守的に評価した結果、連結業績において、のれんの減損損失として226百万円を計上しております。

##### (2) 関係会社株式評価損（個別）

当社の連結子会社の業績等を勘案し、個別業績において、関係会社株式評価損として98百万円を計上しております。

##### (3) 関係会社事業損失引当金繰入額（個別）

当社の連結子会社の財政状態および業績状況等を勘案し、個別業績において、関係会社事業損失引当金繰入額として471百万円を計上しております。

#### 3. 平成 25 年 12 月期 連結業績予想値との差異等

平成 25 年 12 月期通期個別業績予想数値との差異(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,493	△9	103	70	16.87
実績値(B)	2,545	△20	151	△453	△107.87
増減額 (B-A)	52	△10	48	△524	
増 減 率	2.1%	—	47.2%	—	
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	3,013	57	105	△1,132	△269.40

平成 25 年 12 月期通期連結業績予想数値との差異(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 り 当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	百万円 3,604	百万円 △120	百万円 △2	百万円 △41	円 銭 △9.91
実績値(B)	3,588	△223	16	△181	△43.09
増減額(B-A)	△16	△102	18	△139	
増 減 率	△0.4%	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 3 月期)	4,524	△142	△3	△1,255	△298.62

4. 差異の理由

(個別業績)

通期個別業績につきましては、国内景気の回復基調や住設事業の消費税増税前駆け込み需要等により、前回予想(平成25年11月7日公表)に比べ、売上は微増となりました。営業利益は採算性の低い売上構成が高まったため営業損失幅が若干拡大しました。経常利益は貸倒引当金戻入の計上、当期純利益は「2. 特別損失の発生及びその内容」に記載の通り特別損失を計上した結果、上記の通りとなりました。

(連結業績)

通期連結業績につきましては、連結子会社の大型案件が翌期にずれ込んだ影響により、前回予想比で、売上高が減少し、営業利益・当期純利益の損失幅が拡大することとなった結果、上記の通りとなりました。

以 上